

京漆器

【産地組合】京都漆器工芸協同組合

（産地紹介）

奈良時代に唐の影響を受け、蒔絵のもとである技法が生み出されました。この技法が平安遷都とともに京都に受け継がれ発展していきました。京漆器は、室町時代以後、京都を中心に栄えた茶の湯の文化とともに広まり、全国漆器産業の中心として栄えました。その原動力となったのは、数多くの名工が残した作品や技術・技法であり、手と技による品質とデザインの優秀性です。



京漆器は長い歴史に育まれ、他の産地に見られない「わび」「さび」といった内面的な深い味わいを備えています。優雅で洗練されたデザインと、堅牢さに加えて、平面や立体の作りの美しさや、繊細な仕上がりが特徴です。

（トピック）

- ・ 研究機関と連携した実験を通じて、漆に抗菌性があることを証明し、しかも100%天然素材で作られているため、漆器は安全度の非常に高い「自然の抗菌食器」です。このように漆製品が抗菌性を持つことを科学的に証明するなど様々な産学連携の取り組みも行っています。